

春季大会(2007年)に参加して

滋賀投友会 片岡 洋次郎



毎年の事ながら、当クラブの春季大会は鳥羽会場にエントリーし、数年前からは会場責任者もさせていただいている。例年より今年は水温も高い事もあり、アイナメはさほど釣れないのでは？と思いつつ、12時過ぎに今回の釣座である鳥羽市小浜の地磯に到着。今回は今年入会した新人の瀧井君(昔からの悪友?)と共に竿を並べる。早速3本の竿をセットし、マムシを付け点在している根のサイドに投げ分ける。直ぐに「ゴンゴン、ゴンゴン」と10センチ位竿先を押さえ込むアイナメのアタリが。しかし、数回リーリングした所で痛恨のバラシ。「やっても～た～」と少し落ち込んでいると、瀧井氏の竿にアタリが。彼は餌の付け替えてアタリを見ていないので「おーい。当たってるで～」と叫ぶ。彼は慌てながらアワセを入れ、上がってきたのは33センチのアイナメに彼は興奮気味。こちらも負けてられるかと打ち返すが、アブシンばかり「クソ～」。またもや、瀧井氏が大きく竿を曲げ先ほどと同寸をゲットしたところで潮泊まりを向かえアタリが遠のいた。潮が下げに入ってからアタリが何もなくて夜が明けてしまった。その後、下げ潮から上げ潮に変わったとたん、またもや瀧井君がアイナメ34センチクロダイ42,7センチを釣って絶好釣。これには、僕も痺れを切らし彼の投げ込んでいる方向にお邪魔することに…。2本の竿を投げ込んだで納竿10分前に大きなアタリが。直ぐにアタリを入れリーリング。「ゴンゴン、ゴンゴン」と頭を振るアイナメ特有の手ごたえで上がってきたのは40,7センチもあり、思わず「やったで～」と叫んでしまった。これで十分と、直ぐに荷物をまとめて検寸会場に向かう。続々と当クラブ員たちが帰ってきて状況を聞くと、皆がかなり釣っているみたいだ。検寸を待っている、他クラブの方がいるので少し早めに検寸を開始する。思っていたよりも続々と大物が提出されるなか、西大阪サーフの立石さんがマゴチ65,0センチを提出され、皆がびっくり。同クラブの太田さんも、マコガレイ38,2センチにアイナメ37,3センチを提出され、さすが鳥羽に精通しているな～と関心する。ここで、当クラブも検寸していくことに。若手の宮原君がクロダイ46,4センチと40,3センチ。ベテランの大森氏がマゴチ57,4センチとカサゴ25,4センチ。僕の隣で絶好釣だった瀧井君がクロダイ42,7センチとアイナメ34センチ。その他にも大物が多数提出された。ここで、事務局の南氏が「もしかして、団体優勝ちゃうか～」と言。まさかと思っていたが、後日プロジェクトの大阪黒潮サーフ養老会長から「片岡、団体優勝おめでとう」と電話があり、大変嬉しく思っています。